

産後のケアワーカーの活動に関する意識調査

丹羽 勝子* 小山田 千代子** 大西 芳子***

要 約：昨年度の産後のケアワーカーのニーズ調査により、「産後の母子支援に必要な援助を行う、専門的サービス（①産後の心身への理解と対応ができ、②乳幼児の世話や育児の指導・相談相手として十分な内容があり、③家事能力にすぐれている。）の担い手として、産後のケアワーカーへの期待と役割が大きくなってきている。」という事が明らかになった。この結果を受けて今年度は、産後のケアワーカー自身の資質と能力の向上、さらにサービスの内容の充実を計る為に、産後のケアワーカーの実態を把握し、在り方について検討する事を目的に、①職業意識、②活動状況、③技能・技術の向上に何が必要か、また④今後の産後の母子支援サービスの発展に何が必要かについて、全国24地域での産後のケアワーカーを対象に活動意識調査を行なった結果、以下のことがわかった。

(1)専門的サービスの担い手として高い活動意欲を持つ層が多い。

(2)①専門的サービスの担い手として意欲を持つ層ほど、②活動経験の豊富な層ほど、また③今後の活動継続を望む層ほど、教育・研修を強く求めている。

(3)専門的サービスの担い手としての期待に答える為、教育・研修内容として、①沐浴を含めた赤ちゃんの生理と世話、②産後の母親の心と体、また乳幼児の心と体の発達③母体の回復や離乳食を考えた栄養面での知識の学びが強く求められている。

(4)専門的サービスの担い手としての、利用者からの期待と役割に答えていく為には、産褥期専門のカウンセリングの技術を身に付けていく必要があるという意見が大変多くみられた。また、業務の中で起こる産後のケアワーカー自身の悩みやストレスを解決し発散していく為の、カウンセリングの窓口の設定も強く求められている。

見出し語：産後のケアワーカー、産後の母子支援、専門的サービス、産褥期のカウンセリング

*母と子の研究所

(Maternal Research Foundation)

**赤ちゃんとママ社

(Mama & Baby Co.)

*** カウンセラー

(Counselor)

研究方法：対象者は産後のケアワーカー 200人で、首都圏居住者 122人(61%)を中心に、北陸、東海、近畿、中国、四国の各地域の産後のケアワーカーであり、同一系列の母子支援ネットワークに属している。なお、アンケートは、用紙を郵送し、回収・集計し、回収率は99%であった。また、最も活発な活動地域である東京・名古屋・大阪の産後のケアワーカー25人を選んでインタビューを行なった。

結果：①職業意識

産後のケアワーカーをするにあたって、138人(69%)が産後の母子支援一般に関する基礎講座（心と生活両面からの母子支援に対する心構え・赤ちゃんの生理と世話・産後の心と体・ベビシッター概論・乳幼児の成長発達・小児の健康管理と応急処置・幼児の栄養）を受講している。更に専門的なサービスを学ぶ為の、マタernalサポート講座（産後の心身への理解と対応）32人(16%)、子育てサポートセミナー（乳幼児の世話や育児への指導・相談）26人(13%)、ベビシッター・保育者養成講座20人(10%)等を受講しており、活動意識の高さが表れている（表1）。また、産後のケアワーカーを職業として選択した理由に、経済的な理由を挙げるものは少なく29人(15%)で、最も多い理由は赤ちゃんが好き132人(66%)以下、経験や才能を生かしたい95人(48%)、自分自身を高める為74人(37%)、子育て等の一段落したゆとりの時間を活用68人(34%)、社会貢献の為56人(28%)、出生率の低下や乳幼児虐待などの社会問題解決の助けとなるため46人(23%)となっており、赤ちゃん好きな主婦が、

自分の子供の手が離れたときに、自己の成長と、社会参加を目指した結果が、産後のケアワーカーを職業に選択した理由と言える（表2）。また、産後のケアワーカー自身、この職業を通して、自分の成長が見られたとする者が多く、子供をとりまく教育や環境に興味を持ったり、学んだりする機会が増えた122人(61%)、相手の立場を考えられるようになった98人(49%)、柔軟に物事に対処することができるようになった96人(48%)、等としている（表3）。

一方、産後のケアワーカーの利用者からの評価の自己認識について（表4）、低い評価をしている人は、19人(10%)と少なく、全体的に高い自己評価をしていることがわかる。

②活動状況

産後のケアワーカーとしての活動年数が1年未満が39人(20%)、1年以上5年未満が125人(63%)、5年以上10年未満が29人(15%)で、10年以上5人(3%)という産後のケアワーカーもいる（表5）。

産後のケアワーカーの活動内容は、産後の母子支援の他に、子育てサポーター（乳幼児の世話や育児の相談指導）を担当する者13人(7%)もあり（表6）、主な就労パターンは、片道平均1時間以内の範囲と（表7）月曜日から金曜日の（表8）日中を（表9）中心にして、1日平均3～4時間勤務するといった形である。

産後のケアワーカーの活動のなかで、産後のケアワーカーが自信を持っている仕事内容は、順に、沐浴101人(51%)、抱く・あやす94人(47%)、話し相手81人(42%)で、自信のあるものの方が多し事がわかる。おへその手当の補助62人(31%)

)、食事の支度・後片付け60人(30%)等を不得意とする者もみられた。(表10)。

③技術・技能の向上に何が必要か

産後のケアワーカー自身の資質と能力の向上、更にサービスの内容の充実を計る為に何が必要かを聞いた結果、176(88%)が継続的な教育・研修の必要性を挙げている(表11)。

専門的サービスの担い手として、今後研修をして身に付けたい項目は、人間関係・カウンセリングについて139人(70%)、発達にあわせた遊びについて107人(54%)、産後の心と体について107人(54%)、安全について93人(47%)、商品知識について89人(45%)、赤ちゃんの生理と世話について88人(44%)の順である(表12)。

自由記述の内容を見ると、「マタニティーブルーや子育てに悩むお母さんへの相談について」「育児に無関心な父親への働きかけについて」「乳幼児の発達心理学について」「子供の脳の発達や運動能力の発達について」「離乳食の進め方について」「栄養と献立について」「簡単にできる献立について」「アトピーやアレルギーの子のケアについて」「胸のマッサージなどの技術について」「よく聞かれる質問のQ & Aについて」等である。

また、インタビューの内容を見ると、「高学歴・育児情報の氾濫する中で生活する母親に、ありきたりの知識ではたちうちできない。しっかりと基本をおさえた、実際場できちんと対応できるような知識を身に付けたい。」「子供の発達をふまえた遊びやかかわり方など、保母さんの経験や知識は大変役に立つ。赤ちゃんや子供の扱いのプロになりたい。」「育児に悩む母親

を支え、励ましていける様になりたい。人間関係やカウンセリングを学びたい。」「カウンセリングは奥が深すぎて、果たして学べるだろうかと思ってしまう。身近に感じられて、やさしく学べるものなら是非やってみたい。」という意見が出された。また、「沐浴の仕方を伝えていきたいが、母乳指導や医学的な保健指導等は、助産婦さんが一緒に訪問してくれて、指導をしてくれたり、わからないことがあったら、いつでも質問できるようになっていたらとても助かる。」という意見が東京から出され、一方、名古屋・大阪でのインタビューの中には、「助産婦さんの存在が身近ではない。」といった、助産婦との関係が希薄であるという事実が一部うかがえた。「栄養士さんが同席した経験があるが、専門家の立場から赤ちゃんの体重の増え方等を話してくれ、とてもためになった。」「栄養士さんの協力を得て、産後の母体に良く、手軽に作れるメニュー等が配布されるととても助かる。最低1週間分は欲しい。お母さんにも役立つのでは?」「離乳食等についても、栄養士さんから指導を受けたい。」等の意見も出された。

④今後の母子支援サービスの発展に何が必要か。感想としての自由記述を見ると、産後のケアワーカーの質の向上のため、「教育・研修等により、専門的な知識やノウハウを修得する」という意見が最も多く(31人)、次いで、「相手の立場に立って誠実に」(11人)「お客様との信頼関係」(7人)「お客様の声を良く聞く」(4人)「お客様のリクエストを具体的に聞く」(3人)等、利用者のニーズを良く知り、その期待に答えて

いくと言った意見が多い。

一方、今後産後のケアワーカーの仕事を続けたいとしている人は187人(94%)と多く(表13)また、10年以上続けたいとしている人も96人(48%)おり(表14)、今後仕事を続けるにあたって「相手の立場に立って」「やさしさ・思いやり・誠実」「信頼関係」「お母さんが安心できるように」「人との出会い」「赤ちゃん・子供に対する愛情」「相手のニーズにあった接し方」「良き相談相手として」等を大切にしていきたいと考えている。

また、インタビューの中で、専門的サービスの担い手としての、利用者からの期待と役割に答えていく為には、カウンセリングの技術を身に付けていく必要があるという意見が大変多くみられた。また、業務の中で起こる産後のケアワーカー自身の悩みやストレスを解決し発散していく為のカウンセリングの窓口の設定を求める声が多くあった。産後のケアワーカーへの心のサポートがアすの産後の母子支援の発展につながるといった意見が活発に交換された。

考察：(1)専門的サービスの担い手(①産後の心身への理解と対応ができ、②乳幼児の世話や育児の指導・相談相手として十分な内容があり、③家事能力にすぐれている。)として活動意欲を持つ層が非常に多い。

(2)専門的サービスの担い手としての、産後のケアワーカー自身の資質や能力の向上のため具体的な研修内容として①沐浴を含めた赤ちゃんの生理と世話、②産後の母親の心と体、また、乳幼児の心と体の発達、③母体の回復や離乳食を考えた栄養面での知識の学びが求められている。

(3)産後のケアワーカーは、ある期間は家庭とともに過ごす存在となるものであり、多くの場合全人的に頼られることが多く、業務の中で産後のケアワーカー自身がかかえる悩みやストレスは大きい。これらの悩みを解決し、産後のケアワーカーをサポートしていく為のカウンセリングが強く望まれている。これらをふまえた、ワーカーへの産褥期専門のカウンセリングの研修とカウンセリングの窓口の施策・設定が今後の課題となるものと思われる。

Abstract

Research on the present state of the home visitation program for new mothers and their new borns.

Katsuko Niwa¹⁾ Chiyoko Oyamada²⁾ Yoshiko Ohnishi³⁾

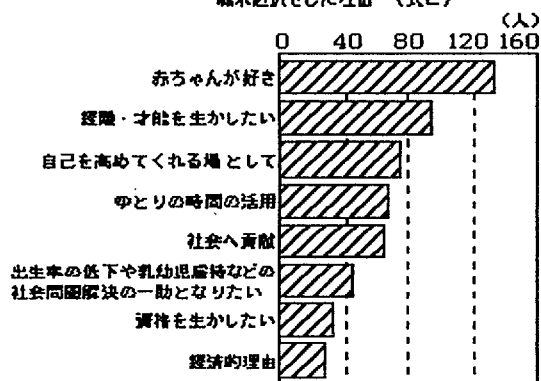
Summary: To improve the home visitation program for new mothers and their new borns, we investigated 1) the home visitor's identity 2) the home visitor's functions 3) how to develop the home visitor's skills 4) how to develop the home visitation service.

We could confirm that it has been important not only to develop the home visitor's skills by training, but also to cooperate the home visitors with nutritionists and midwives to improve the home visitation program. On the other hands, the training system for them to learn counseling to understand maternal life and to guide the children, and counseling system itself for the home visitors are strongly needed to improve the program.

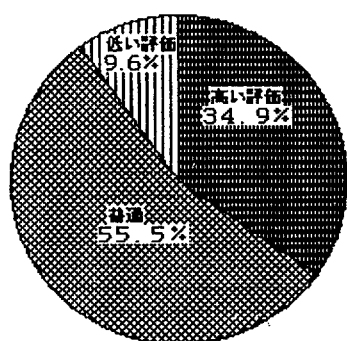
アンケート回答者

居住地域	年齢層	結婚	持っている公的資格
茨城県	15	20代	15
埼玉県	32	30代	39
千葉県	5	40代	87
東京都	10	50代	42
神奈川県	60	60代	15
静岡県	1	家族構成	
愛知県	24	一人暮らし	5
石川県	6	母子家庭	2
滋賀県	14	夫婦のみ	20
大阪府	6	核家族	125
兵庫県	7	三世帯	24
広島県	12	その他	22
香川県	6		
合計	198		

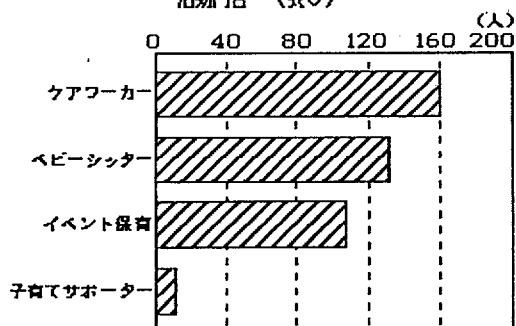
職業選択をした理由 (表2)



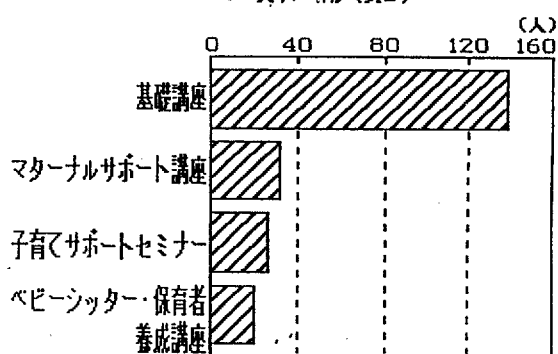
利用者からの評価の自己認識 (表4)



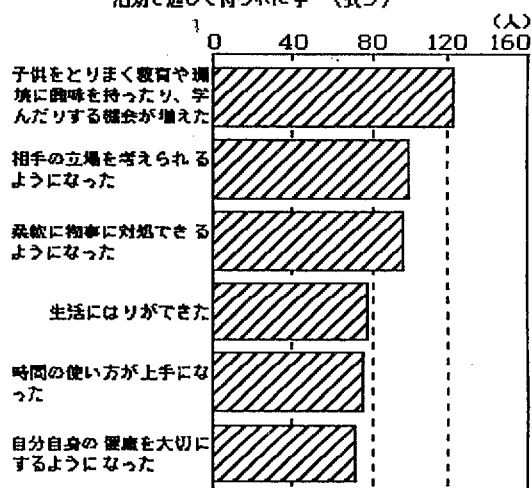
活動内容 (表6)



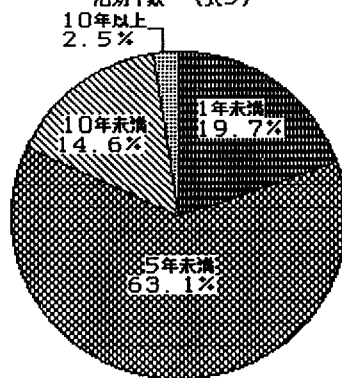
これまでに受けた研修 (表1)



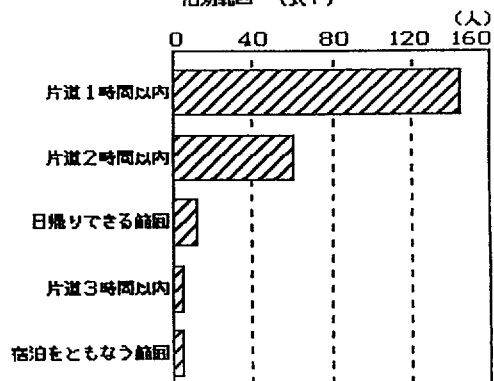
活動を通して得られた事 (表3)



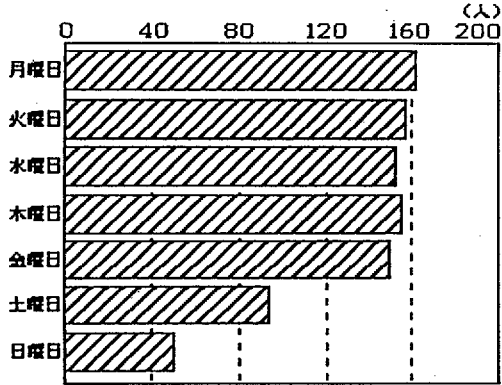
活動年数 (表5)



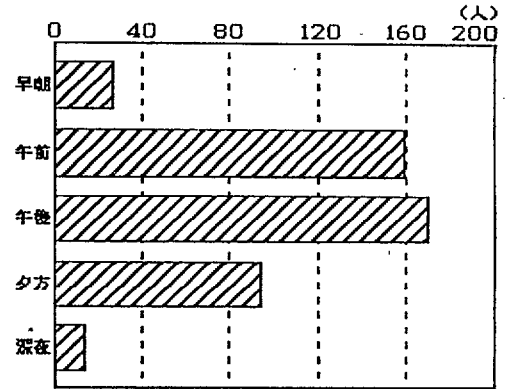
活動範囲 (表7)



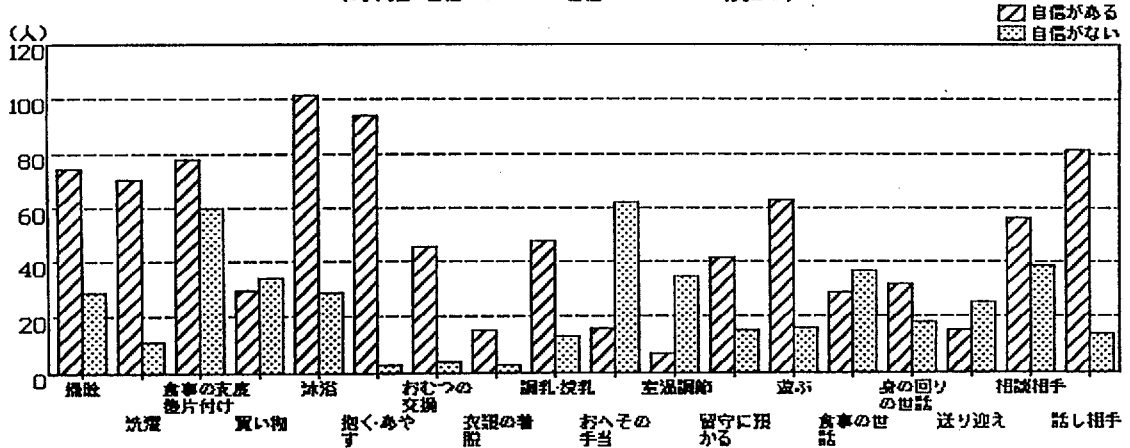
活動曜日 (表8)



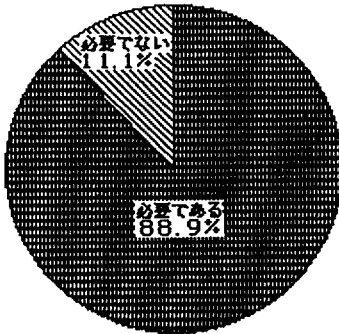
活動時間帯 (表9)



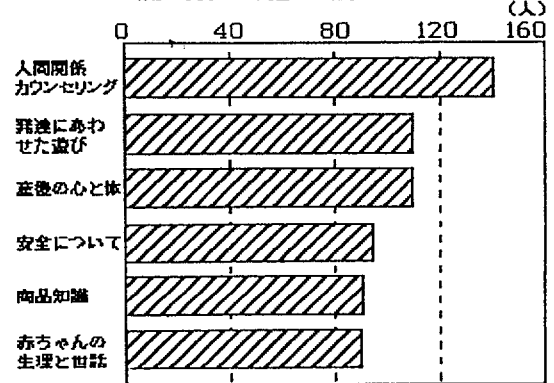
仕事内容で自信のあるものと自信のないもの (表10)



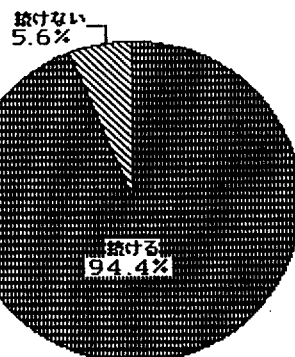
教育・研修の必要性 (表11)



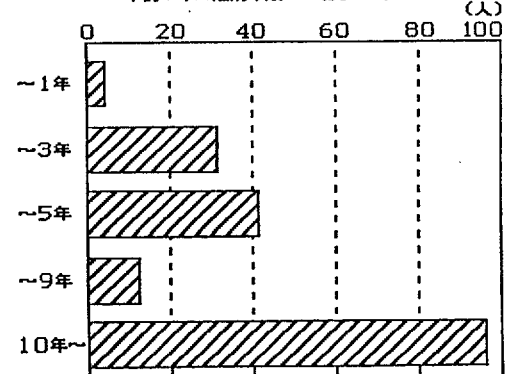
研修で受けたい内容 (表12)

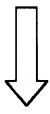


今後の活動の継続 (表13)



今後の希望活動年数 (表14)





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 約:昨年度の産後のケアワーカーのニーズ調査により、「産後の母子支援に必要な援助を行う、専門的サービス(産後の心、身への理解と対応ができ、乳幼児の世話や育児の指導・相談相手として十分な内容があり、家事能力にすぐれている。)の担い手として、産後のケアワーカーへの期待と役割が大きくなってきている。」という事が明らかになった。この結果を受けて今年度は、産後のケアワーカー自身の資質と能力の向上、さらにサービスの内容の充実を計る為に、産後のケアワーカーの実態を把握し、在り方について検討する事を目的に、職業意識、活動状況、技能・技術の向上に何が必要か、また今後の産後の母子支援サービスの発展に何が必要かについて、全国 24 地域での産後のケアワーカーを対象に活動意識調査を行なった結果、以下のことがわかった。

- (1)専門的サービスの担い手として高い活動意欲を持つ層が多い。
- (2) 専門的サービスの担い手として意欲を持つ層ほど、活動経験の豊富な層ほど、また今後の活動継続を望む層ほど、教育・研修を強く求めている。
- (3)専門的サービスの担い手としての期待に答える為、教育・研修内容として、沐浴を含めた赤ちゃんの生理と世話、産後の母親の心と体、また乳幼児の心と体の発達 母体の回復や離乳食を考えた栄養面での知識の学びが強く求められている。
- (4)専門的サービスの担い手としての、利用者からの期待と役割に答えていく為には、産褥期専門のカウンセリングの技術を身に付けていく必要があるという意見が大変多くみられた。また、業務の中で起こる産後のケアワーカー自身の悩みやストレスを解決し発散していく為の、カウンセリング の窓口の設定も強く求められている。